

教育目標: ◎思いやりのある子 ○すすんで学ぶ子 ○力を合わせる子 ○元気な子
 目指す学校像: ○確かに学ぶ学校 ○安全・安心な学校 ○未来を創る学校 ○ともにある学校
 目指す児童・生徒像: ○主体的に学び、自らの力を高め伸す子 ○自他を大切にし、心豊かに他者と協働する子 ○心身ともに健康に生活する子
 目指す教師像: ○学校の役割を十分に理解し、家庭・地域と連携して教育活動に貢献する教職員 ○心身ともに健康な教職員

| 領域 | 中期目標 | 短期目標 | 具体的方策 | 努力指標 | | 成果指標 | | 今後の課題 | 学校関係者評価記入欄 |
|---------------|--|--|--|------|------|------|------|---|---|
| | | | | (中間) | (最終) | (中間) | (最終) | | |
| 確かに学ぶ学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的知識及び技能を確実に習得させる。 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を推進する。 カリキュラム・マネジメントを推進するとともに、多様な人々と協働しながら課題解決を図る学習を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的知識及び技能を確実に習得させる。 個に応じた指導、互いに学び合い、高め合う指導、タブレット型PCの活用を推進・充実させる。 体験的・協働的な学習、探究的な学習を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」、「分かりやすい授業」を推進し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。 「習得・探究・活用」「問題解決」の学習過程を取り入れた授業、生活科や総合的な学習の時間を中心とした人的・物的資源を生かした協働学習を行う。国分寺学の推進を図る。 タブレット型パソコンの活用、ICT機器等を効果的に活用した分かりやすい教材の提示により、「分かる・できる・つながる授業」を展開する。個に応じた丁寧な指導を行う。 | 4 | 3 | 4 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> 今後「教え合ひ」「ともに学ぶ」の機会を増やすことで、児童自らが学習内容の習得を実感し、学びを表現しようとする意欲をさらに高めていく。 地域にある教材を活用したり、生活につながる課題を設定したりすることで、より生きた学びの習得を目指す。 地域にある教材を活用したり、生活につながる課題を設定したりすることで、より生きた学びの習得を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎、基本的な学習がよくできている一方で、先生たちの日頃の指導、努力に感謝している。 子供たちに学ぶ意欲を身に付けさせるためには、課題解決や協働的な学習を行うことはとても大切であり、引き続き取り組んでほしい。 授業観察で、以前より手を挙げる児童が減った印象があるので、その背景や課題を知りたい。 子供たちの書く力を伸ばしていくために指導方法の工夫は、これからも考えていってほしい。 ICTを活用しての発表は、意見を出しにくい子供にとっては良いツールになっていて、いろいろな意見を出し、意見交換をするのに効果的である。 ICTを活用した授業が推進されることは良いことですが、画面だけでなく、人としてのコミュニケーションもあつての授業であってほしい。 ICTの活用に関しては、先生方の情報や他校の事例などを共有できると良いと思う。 |
| 安全・安心な生活指導 | <ul style="list-style-type: none"> 規範意識の醸成と他者を大切にすることを言葉や態度(挨拶・礼儀)で表すことができるようにする。 いじめや差別、体罰を絶対に許さないなど、全教育活動を通じた人権を尊重した教育活動を推進する。 安全教育の推進に取り組む。 教材・教具、校内環境の美化・整備を適切に行い、教育環境を安全に整える。 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や集団生活をする上でのルールを徹底を図る。 自他の心身を大切にするための判断力・行動力を身に付けさせる。 いじめ防止・不登校対策の充実と徹底を図る。 保護者や地域、関係諸機関と連携した安全教育の取組を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 「十小のきまり」「10の約束」の指導の徹底の徹底を家庭と連携して行う。 挨拶や相手を大切にすること、暴力や暴言を許さない。体罰防止に努める。 組織的にいじめ防止に取り組む。毎月、笑顔チェックカードにより児童の様子を把握し、SOSを見逃さないよう細心の注意を払う。 様々な場面において、「想像する」「行動する」の習慣化を図り、思いやる心や危険を予測し回避する力を養う。また、家庭・地域と連携した安全教育に取り組む。 学校環境を安全に整え、安全指導や避難訓練の充実を図る。 | 3 | 3 | 4 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> 全校朝会の呼びかけや生活指導夕会の情報共有、教員が模範となつて行う守る姿勢を見せるなど、共通の意識で指導したことが有効だったので、引き続き教員の意識を高めていく。 避難所としての役割もあるため、地域とともにある安全教育の構築を目指し、地域の人材や施設を活用した指導計画を立てる。 「生命(いのち)の安全教育」を全学年ですすめ、児童にとって学習したことが実践的態度につながるよう、日々の生活指導中에서도生かしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 「いじめ防止」に向けて、全て学校で対処するのは絶対に無理なので、保護者との連携を強める必要があると思う。また、保護者同士のつながりをもてる場を学校でもつくるのができたらと思う。お手伝いでも良いので、学校と関わる場ができると良いと思う。 安全に関しては、学校だけでは対応しきれない部分が必要があるので、家庭や地域とも連携して取り組んでいく必要がある。 防災に関する授業が、児童の主体性を大切にされていることが素晴らしい。自分のこととして受け止めてほしい。 地域の防災システム、避難所としての役割を子供たち自身が知り、自分たちでできることを考える場を与えてほしい。 |
| 未来を創る・たくましい体 | <ul style="list-style-type: none"> 困難なことにも立ち向かい、様々な人と協働し、課題を解決していくことができるたくましい心と体を育成する。 自分のよさや可能性を伸ばし、生き方について考えを深めたり、自分の夢や希望を大切にしたりすることができるようキャリア教育を推進する。 家庭との連携を図り、生涯にわたって運動に親しみ、健康な体を維持していくこととする態度を培う。 | <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育や多様性・人権教育の学習を充実させる。 キャリア教育の推進し、自分のよさ・生き方について考える機会を設けたり、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けさせる。 音楽・造形活動を通して、豊かな情操を養う。 「体力の向上」「食」の大切さを理解し、健康な生活を送ることができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーや特別支援教室の巡回指導教員等と連携し、発達障害や多様性への理解を深めたり、道徳教育・人権教育の指導を充実させる。 ゲストティーチャーによる授業や自分のよさや協働するよさを感じる授業を充実させ、キャリア教育・アントレプレナーシップ教育を推進する。 音楽や発表など表現する機会を積極的に設けるとともに、学級活動、委員会活動を充実させ、児童の自主的な活動を推進する。 児童による委員会活動や休み時間の有効活用により、「楽しみながら運動に親む機会」の日常化に取り組む。 元気チェックカードの活用や栄養士と連携した食育を充実させ、健康な心身を培っていくこととする意識を高める。 | 4 | 4 | 4 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> 児童主体の活動を中心に、人権教育を教科指導や特別活動で行い、多様性を認め合い、偏見や差別意識のない学校環境を目指す。 地域で働く人を中心に、様々な人の生き方を学ぶ機会を作り、児童の特性と学びが将来の生き方につながるようにする。 学級活動での話し合い活動を充実させ、発達段階に応じた指導の系統表に沿って、より自活力、協働力を伸ばしていく。 自分の思いや考えを表現しようとする気持ちを高めるために、教科指導での表現の場を工夫したり、表現方法を身に付ける体験活動を増やしたりすることにより、表現することに喜びを感じることができる経験を増やしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 子供たちと関わる中で、いつも元気な明るい児童が多いことに感心している。 ゲストティーチャーを取り入れた授業が多かったことはとても良いと思う。地域の方だけでなく、保護者の方もより多くの方が関わっていただけたらいいなと思う。 「十小タイム」を以前のように保護者、地域の方をお招きする形で開催できると、子供たちがやりたいことを実現できる場になると思う。 たくましい体の育成とともに、たくましい心も創っていただければと思う。 いろいろな大人の生き方に接していただき、いろいろな生きる道があることを知ってほしい。 子供たちの主体性、自活力を育てるための地域人材を確保し、物的環境を整える必要がある。 「多くの人と関わりたい」というのは、我々大人がその楽しさを見せていかないといけないと思う。ボランティア活動などでそれを見せていきたい。 |
| 家庭・地域とともにある学校 | <ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域に学校運営について分かりやすく情報を発信する。 教育活動の充実・改善のために、内部評価・外部評価を生かす。 保護者や地域の願いを共有し、「開かれた学校づくり」に取り組む。 家庭・地域と連携して教育活動を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童の学校生活や取組の様子がよく分かるよう学校だよりや学校ブログを充実させる。 学校協議会委員・保護者・教職員・児童を対象とした学校評価を実施し、PDCAサイクルによる改善を図る。 保護者・地域と協働し、「チーム十小」として、教育活動を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページ、学校ブログによる教育活動の様子の適宜発信等、情報を分かりやすく伝える。 学校運営協議会委員・保護者・教職員による学校公開や行事等の実施後アンケート結果を生かし、教育活動の改善・充実を図る。 教職員は、児童が安心して通学できるよう日常の連絡などを丁寧に行い、保護者とともに児童の成長を支える。 保護者や地域人材が積極的に教育活動に参画できるように「学習ボランティア」「特別校内委員会」などのシステムを確立させる。 | 3 | 4 | 4 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> アンケートや学校評価から新たな課題や具体的な解決策を見出そうという取組を組織的、計画的に行い、具体策を発信することにより、地域や家庭の協力を得て「よりよい学校」に向けて改善していく。 学校評価の回答率が低いので、内容、期間、呼びかけの方法などを再検討し、改善する。 保護者による「十小ボランティア」の活用は、システマ的な課題も含め、継続して活用することが難しい。教育方針や教育活動の理解をより深めていただくという視点でも、さらに推し進めていく必要がある。 コミュニケーションのコーディネーターと連携して、保護者や地域の方の教育活動への参画をさらに促す。 | <ul style="list-style-type: none"> 外部との連携や新しい取組など、常に工夫を続け、よい教育になるよう努力していると感じる。特に「まなびポケット」での配信は、やってみて課題や効果的な活用方法が見えてきたのではないかな。 教育活動について、どのような取組をしているのかという情報は保護者にとって安心につながるため、今後も丁寧な情報発信をお願いしたい。 情報モラルの問題は、大人が自分事として捉え、大人の情報リテラシーを高めていく必要がある。 地域と学校との連携を強化するために、私たち地域の方からもつながる努力をしていきたい。 |